



孫家身之志

四編

大尾

抄本

2475
95



へき19
2475
95止

鎌倉見聞志四編卷之貳拾

一 將軍家^{しやうげんけ}和分^{わぶん}山内^{やまうち}乃^の事^{こと}

附^つ山内^{やまうち}入^い彦^{ひこ}卒^す去^くの^の事^{こと}

一 内宗^{うちむね}執^と後^ご乃^の事^{こと}

附^つ山内^{やまうち}山内^{やまうち}初^{はつ}侍^{せう}の^の事^{こと}

一 武彦^{ぶげん}与^よ平^{へい}長^{なが}内^{うち}北^{きた}去^く乃^の事^{こと}

附^つ將軍家^{しやうげんけ}后^ご君^{きみ}山内^{やまうち}誕生^{たんじやう}の^の事^{こと}



一 將軍家童孫清賢の夏
 高野 海乃事



徳念貝聞志雲篇卷之貳拾五

將軍家初秋決意の夏

世如條時彩入道卒去乃夏

去の夏 弘長三年二月也條

お徳高政村が亭より一日

千人乃 柳家の舎成りあり

事なる 將軍家高親王入る

清少納言 清少納言乃道長長
のし 知少考八を伝のりし
はるるを寄る夕少と山の井の
あくひしひとらゆひのまの
甲子 若殿 初殿の死乃梅より
そしと 梅乃考乃るま 史科 姨
梅の母乃 朝子 乃ふがき 梅

山崎の古き 政成乃子 室家又と
政隆の朝と乃 朝と 法がひ 幸
子 朝子 今乃 政成乃 政成乃
しと 政成乃 政成乃 乃らまにを 教
か の ころしと 好まふか 史金 成
清少 朝子 探さく かけ物 成
の 連 氣 指 七人 原乃 朝子

わ乃多刻之即びく 亦首乃和
初成細出所外有之今 海島之
外 將軍家自成之其れ 邊所
一 終不同七月に 將軍家去ぬ
建長六年より 西長元年まで
細く終えん 初成集をく 初
心 忠 奉 之 為 竹 終 亦 之 也

細く終えん 初成集をく 初
心 忠 奉 之 為 竹 終 亦 之 也
人乃耳目成か 始くも秀歌
新 名家入道 細く 深く
慶貞 世 終 同 十月
亦一日 正 位 下 行 亦 終 亦 終 終

時形入道と道崇の長幼との比乃
亭少のりわく平長と年二十
七歳あり神中定まら余と
くちりゆぐ医療少く強可
病脚老ありくひあうそ
室長時寺小築りく心静
隙竹とてくく屋老と入道

津心病全在あつ入道長心友
人のおか入成とめ加装袋衣と
病一縄杖と竹句と西友所禪
業鏡高懸三十七年一追
歩辟大道坦然也
弘長三年十一月廿二日 道崇

孫重りんちゆうとらつ
叔内しやくない入道にゅうだう八平はちへい生武なむ昭あきとも
ひく君きみ成政なりまさ即すなはち中なかつ仁貞にせき成政なりまさ昭あき
て氏うぢ成政なりまさのきこ天理てんりのりやん
人ひと賣うりと島しまト保隆たうりゆう西にし長ながや
て定永じやうえいととせとむ日ひ之の碑いし礎いしと
即すなはち身み成佛なりぶつの瑞みづきおと示しめ

孫まご不ふ誠まことト權化ごんかの再また施しあつと
孫まごとと一ひと始はじめ免めん寛元かんげん四年しよんと
康やす元げん元げん子こまき首くび尾び十一年じゆいちねんと
執とつ権ごん乃すなはち威い上じやう座ざと藤ふじ師しの
後のち七年しちねんあやからととと十八じゆはちと
子の政道せいだう而しかく天あま下した分ぶん定じやう之の
也なり弟あに家の政せい理り者もの内うち親ちか乃なり

用山終入... 業思...
古九日... 性亡... 津鹿の事
少... 将... 暗...
又... 若... 将...
一曰... 保... 同... 八... 合... 近

大吏... 名紙... 亭...
入... 津... 鹿... 事...
増... 津... 鹿... 事...
次... 乃... 名... 紙... 津... 鹿... 事...
取... 又... 還... 津... 鹿... 事...

氏... 年... 長... 内... 死... 去... 乃... 復...
附... 将... 軍... 家... 君... 君... 津... 鹿... 生... の... 復...

文永元年八月十日山條貞房
長内死すは是れお徳高重内
か場胃外う養うか文永の
人少くはれども其の
柳中一人成世一途成道
おし終えしは成長と遊道成
満久内終小付くは終一死

人あまのへくへく病ひを犯さる
終く死すは是れお徳高重内
乃ともがうは成血中替えく
歎くは是れお徳高重内
一内乃もく友果う人百の一
生か風あのは焼茶もハま
州はのちか神中酒あま世

乃中列の同日十二日為軍家の
若君御心くし地生何う懸
てし乃西行加持の勅力よの
く清母子ももねりて法園
海と清不法於法寺の山の
うげまの山成かまの横がぶ
とく海よりあでる事

為軍家重教清貨の支

同く二日二月二日清息而お徳与
内家の亭に入清ふらまの為軍
家二西の山精進くよりて何
望口為軍出演山成を清不統
が乃人くきかひくまの定め
高きくくぬ新撰をく

身も外一一日は道南のつて
河内分國く三月四日法南の山鞠
乃壺中し中教書成法覽の
是を佳く長法舎の意染成
移るれ書重あ成南の中しけ
らふ外大御門大細云死山流大細云
ハ属中以帳をくか法二位顯氏

郷法三位基補に一条中為能基
八條中為信道去來少於顯名
唐橋少於具忠お国云一具法階
中少於か月一唐陸河かたりの
梁少少三基法州古年樂友
白尾綾王右の樂少し長保樂
林歌物辨貴徳納候利し

八音清之無一鬼神も威
道義信孝の乃意足乃端而
と大文生女一地理音と
まゝしり是重既人其地成
施と而成教ふ抑く在年の
美春外り松名禪王乙鶴井
吾木童者乃枕曲と是

事以不上下威と終ふ所と又
た一方と一紙小吹中
多ふ声とくく雲知く印
こ山海と流か色喜比知
てりやとくあつら内右と取置
中東光氏賀後の枕曲成衆
事外年氣の社を風とる

法政の進歩と後進の文元と西領乃
事は如く年鑑を法政の進歩
中事ならし文元ハ法政の進歩
名は事なりし時ハ古刀以帯
い、わ、く、古、之、世、ら、る、成
横、外、の、と、其、所、の、事、を、之、に、
武士の振舞、く、似、こ、る、荒

凍乃体、わ、く、く、胸、の、外、に、乃、格
式と茂、小、い、く、く、く、胸、の、腹、痛
く、く、く、本、道、乃、威、美、小、返、さ、る
く、く、若、者、俣、乃、西、行、と、合、く、文
武、乃、道、古、混、ト、古、能、根、く、小
法、中、遠、心、混、心、を、く、是、中
く、く、古、事、以、人、事、合、く、

世系と傳授の文元が將
大新が傳文狀大炊女文書を
子細成身の母亦彼の
法湯察乃子孫の事と
年の及は以てえとも右
乃威書とお急う七條
入道人納言家の山内を幕

府の儀と宿進と新免格子
上の乃は法成の以て武彦の
禪室入道二代と世法の
乃は今の今の今の是と
改はうの大の官途と
中の道のおの

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

中へく乃名石年乃汲も

つ〜欠帯あ〜外う〜外〜

流江あ〜中流んしおのづ〜

中へく乃名石年乃汲も

徳倉見聞志四篇之式十八

徳倉

